

第1回 戦没者遺骨収集における同位体比分析の活用に係る検討会

－ 戦没者遺骨鑑定における同位体比分析の現状について－

1 米国 DPAA の同位体比分析の取り組み

(1) 同位体比分析の利点

- (i) 迅速な分析
- (ii) 身元確認につながる情報の提供（特に DNA 分析が不可能な場合）
- (iii) 混合遺骨の分別

(2) DPAA での同位体比分析の実施

- (i) 食性分析：鑑定対象となる検体の優先度順番付
- (ii) 地理的起源：分析結果と推定該当者出身地域のリファレンスデータとの照合
- (iii) 測定値による分別：混合遺骨の個体識別

2 同位体比分析による所属集団別の分別について

- (1) 日本出身者と米国出身者との分別：炭素同位体比分析が有効
- (2) 日本出身者とパプアニューギニア出身者との分別：硫黄同位体比分析が有効
- (3) 日本出身者とフィリピン出身者との分別：硫黄及びストロンチウム同位体比分析が有効

3 同位体比分析による日本人遺骨である蓋然性の判定について

- (1) ストロンチウム同位体比分析による評価：日本人分布域との対比
- (2) 酸素同位体比分析による評価：日本人分布域との対比

4 リファレンスデータ作成について

これまでの日本国内の収集試料（歯牙）は、成人男性が主であり、性別、年齢構成に偏りがある。食習慣を反映する炭素、窒素同位体比には、性差や時代変遷があることが知られていることから、今後は戦没者に近い世代と女性からの試料収集を進める必要がある。

5 今後の課題

- (1) 日本出身者の各種同位体比分布域の把握（試料の収集と分析）
- (2) 関係国との同位体リファレンスの共有
- (3) 遺骨分別のための分析項目の選定
- (4) 判定基準の標準化